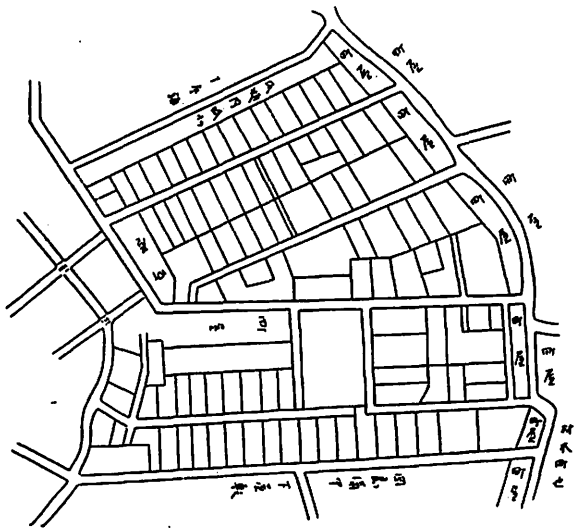


や。元祿の金澤圖には、御小人の宅地の事を記載せず。是既に絶えたるものなるべし。

○小人小者來歴

小人・小者は元と同稱にて、共に奴僕の名稱なり。小者の名目は、蔭涼軒季瓊日録に、寛正六年臘月八日今出川殿御小者幸若御扶持米之事被仰出と見え、又延徳二年正月廿三日の條に、御小者春若・虎若・藤若云々。同年二月五日の條に、御小者千若・春若云々。など見たり。此の外にも小者が事、彼是記載せり。前田創業記に、天正十年利長卿依信長公命。携玉泉夫人上京。六月二日到勢田邊。信長之草履取一若馳來、告信長父子之變。とあり。混見摘寫には、信長公の奴僕顔幕とす。思ふに奴僕の名を某若と稱するは、往昔よりのならはしならんか。有澤永貞の古兵談殘齋集には、六月二日勢田まで御越被成處に、信長公の御仲間岩隈走り來り、明智謀反にて御切腹の御様子を申上ぐる。とあり。仲間は則小者・小人の事にて、奴僕的一名也。仲間の名目は、曆應三年十一月得江九郎頼員申軍忠狀に、今年八月十七日櫛向城於藤嶋内丸岡之處、自黒丸城凶徒打出之間



馳向云々。攻戰之刻中間源四郎被疵。また同人申軍忠狀に、

同二年六月廿九日凶徒等寄來經峰城之間、爲後攻馳向之刻、中間左近次郎信忠被疵。などありて、太平記等にも見たり。さて吾が舊藩にては、仲間小人・小者・小遣或は長柄小人などの名目にて、各其の宛行高等に差等ありて、勤方も異りといへども、身分取扱方は凡そ同体裁なり。中にも小人と呼べる奴僕に就きては、元祿十四年藩祖大納言利家卿越前府中以來奉仕致しける助目の足輕・小者子孫連綿の者、綱紀卿穿鑿し給ふにより、割場奉行等より言上由緒書あり。如左。

横田甚左衛門由緒

一、祖父

三右衛門

大納言様御代御小人に被召招、中納言様大坂御出陣御供仕、御歸陣之後數年御奉公申上、承應二年病死仕候。

一、父

孫 助

中納言様御代本座御小人に被召抱、御奉公申上、其後筑前守様御奉公申上、江戸より高野御遺骨御供仕、御國に罷歸候處、江戸定番足輕に被成、假名相改、横田孫助与申

候。

岩崎彦助由緒

一、曾祖父

七右衛門

大納言様御代、於越前府中御草履取に被召抱、御奉公申上候處、御當地に而病死仕候。

一、祖父

七右衛門

故肥前守様御代、御草履取に被召抱、中納言様御代迄御奉公申上候處、慶安四年病死仕候。

一、父

長兵衛

中納言様御代、寛永十六年御草履取に被抱、御奉公申上候處、元祿五年病死仕候。

森久兵衛由緒

一、曾祖父

御小人小頭 喜右衛門

大納言様御代御長刀持に被召抱、御奉公申上候處、小頭被仰付、元和九年病死仕候。

一、祖父

同 喜右衛門

故肥前守様御代御小人被召抱、御奉公申上、小頭被仰付、寛永十年病死仕候。